

公表版 (3/23) からの修正点一覧表

	章節	頁	行	修正前	修正後	備考
主文	目次	i	19-23	3. 3. 2~3. 4. 3 のページ番号 (25, 29, 29, 35, 39)	26, 30, 30, 36, 40	記述ミス
		ii	22	6. 1. 2 … 「震源断層を特定した地震動予測」の融合に向けて	「震源断層を特定した地震動予測地図」	記述ミス
	3	21		台風通過確率 150km 以内を通過 (年平均通過数/全発生数) 札幌市、東京都、那覇市	30km 以内を通過 (1-exp[-年平均通過数]) 東京都のみ	算出方法の変更
		22	8-9	気象庁公表の台風経路図 (ベストトラックデータ) にもとづく各都道府県庁所在地から半径 150km 以内を通過した台風の年平均数/年平均発生数 (26.9 個)。	気象庁公表の台風経路図 (ベストトラックデータ) にもとづく東京都庁所在地から半径 30km 以内を通過した台風の年平均数 ( $\lambda=0.3$ 個) からポアソン年発生確率=1-exp(- $\lambda$ )を算出。	算出方法の変更
		40	14	図 3. 3. 3-3	図 3. 4. 3-3	記述ミス
			地域別影響度の図	地震の影響度グラフ		グラフ表記方法の変更
			図 3 のシリーズ	図 3. 3. 1-1, 図 3. 3. 1-2 (b), 図 3. 3. 1-3 (b), 図 3. 3. 1-4 (a), (b), (c), 図 3. 3. 2-3 (a), (b), 図 3. 4. 1-1, 図 3. 4. 2-1, 図 3. 4. 3-1, 図 3. 5-2 (a), (b)	(差し替え)	その他地震の修正に伴う図面差し替え
	4	62	図 4. 3. 1-1	ケース 2 ⇔ ケース 3		図の入れ替え
		62	図 4. 3. 1-2	図にキャプション (ケース 2、およびケース 3) を追記		
	付 2	92	付表 2-1		平成 17 年 4 月 13 日公表の 10 断層帯を追加	98 断層帯公表に伴う修正
	付 3	94-104	付表 3-1		(差し替え)	98 断層帯公表に伴う修正
		105	付表 3-2	三陸沖北部・一回り規模の小さい地震	三陸沖北部・固有地震以外のプレート間地震	表現の修正
		106	付表 3-2	千島海溝沿いの地震 (第二版) ・ひとまわり規模の小さい地震	千島海溝沿いの地震 (第二版) ・ひとまわり小さいプレート間地震	表現の修正

分冊 1	2.1.1	4	25	式(3.3.2-2)	(2-2)式	記述ミス
		5	2	震源を予め…	震源断層を予め…	記述ミス
		5	7	メッシュを対象としている範囲において、	メッシュにおいて、	記述ミス
		5	8	Gutenberg-Richter	グーテンベルク・リヒター	英語表記の変更
	2.1.2	5	27	算定方法は付録で示したとおり	算定方法は2.1.1項で示したとおり	記述ミス
	2.2.1	9	表2.2.1-1	—	(網掛けをとる)	98断層帯公表に伴う修正
		13	表2.2.1-1	(注)・網掛けの活断層は長期評価未公表。	(削除)	98断層帯公表に伴う修正
		19	表2.2.1-2	—	(網掛けをとる)	98断層帯公表に伴う修正
		32	表2.2.1-2	9206 崩平山-亀石山断層帯の最新活動時期 平均ケース 403年 最大ケース 805年	平均ケース 403年前 最大ケース 805年前	表記ミス
		32	表2.2.1-2	9302 布田川・日奈久断層帯中部(ケース1)平均活動間隔 最大ケース 3500年前	3500年	表記ミス
		33	表2.2.1-2	9801 大阪湾断層帯の最新活動時期 平均ケース 603年 最大ケース 1205年	平均ケース 603年前 最大ケース 1205年前	表記ミス
		33	表2.2.1-2	9801 大阪湾断層帯 30年発生確率0.003%以下 50年発生確率0.006%以下	30年発生確率0.004%以下 50年発生確率0.007%以下	表記ミス
		34	表2.2.1-2	(注記)・コード欄が網掛けの活断層は長期評価が未了のため、審議資料に基づきモデル化を行った	(削除)	98断層帯公表に伴う修正
		36	表2.2.1-3	—	(網掛けをとる)	98断層帯公表に伴う修正
		40	表2.2.1-3	3601 神縄・国府津-松田断層帯 北側隆起の逆断層	北-北東側隆起の逆断層	表記ミス
49		表2.2.1-3	9206 崩平山-亀石山断層帯 主として北側が相対的に…	主として南側が相対的に…	表記ミス	
50	表2.2.1-3	9502 雲仙断層群南東部 長期評価 約23km	23km程度	表記ミス		
50	表2.2.1-3	(注記)・標津断層帯(0101)、…長期評価が未了のため、	(削除)	98断層帯公表		

			審議資料に基づきモデル化を行った。		に伴う修正
	50	表 2.2.1-3	(注記)・神縄・国府津－松田断層帯(3601)・・・一部改定のための審議資料に基づきモデル化した。	(削除)	98 断層帯公表に伴う修正
2.2.3	105	表 2.2.3-1	確率値等複数箇所	有効桁表示等の修正	修正漏れ等
2.3.2	188	4, 11	司・翠川の式	(2-20)式	式番号に変更
2.3.3	188	21	西日本地域における工学的基盤に対する…	工学的基盤に対する…	記述ミス
2.3.4	188	32	計算震度	計測震度	記述ミス
	188	33	司・翠川の距離減衰式	(2-20)式	式番号に変更
2.3.5	189	4, 11	微地形分類	地形分類	記述ミス
	190	表 2.3.5-1	(右側の表) 地形分類	地形分類(微地形区分)	追記
		表 2.3.5-1	(右側の表) 埋立地	埋立地・干拓地	表記ミス
		表 2.3.5-1	(右側の表) 新第三紀、古第三紀以前	山地(新第三紀)、山地(古第三紀以前)	表記ミス
	191	5	平均 S 波速度の関係	(2-28) 式の回帰係数	記述ミス
	191	表 2.3.5-2	式 2-28 における・・・	(2-28) 式における・・・	表記ミス
	191	表 2.3.5-2	地形分類	地形分類(微地形区分)	追記
	192	1	主要河川までの最短距離に	主要河川からの最短距離に	記述ミス
	192	表 2.3.5-3	微地形区分	地形分類(微地形区分)	追記
	192	表 2.3.5-4	微地形区分	地形分類(微地形区分)	追記
2.4	192	23	確率論的地震動予測地図の試作版では	確率論的地震動予測地図では	記述ミス
	192	26	今後、地図を公開する場合において表示を検討すべき指標の1つである。	(削除)	不要
3.1	193	15	主要 98 活断層	主要 98 断層帯	記述ミス
	193	22	3500 年前	4850 年前	記述ミス
	193	33	山形盆地西縁断層帯	山形盆地断層帯	記述ミス
	193	40	発生確率に差が大きなものによって	発生確率の差が大きなものによって	記述ミス

	3.2	197	19	司・翠川の距離減衰式	司・翠川(1999)の距離減衰式	追記
	4	202	5	平成15年に発生した十勝沖地震(M8.0)は	平成15年(2003年)十勝沖地震は	正式名にした
		202	5	約60%	60%程度	記述ミス
		202	17	平成16年新潟県中越地震	平成16年(2004年)新潟県中越地震	正式名にした
	5	203	8	発生確率という考え方を取り込まれることも想定される。	発生確率を取り込むことが想定される。	文意を通るようにした
	5.3	204	35	主要98活断層帯	主要98断層帯	記述ミス
	6	206	8	「震源断層を特定した地震」による地震動予測地図の取り込む融合の考え方2	融合の考え方2	文意を通るようにした
	引用文献	208	3	Idress	Idriss	記述ミス
		209	5	歴史地震飼料	歴史地震資料	記述ミス
	付録1	212	14	宮城県沖の地震(M6.9)	宮城県沖の地震(M7.1)	記述ミス
		213	15	平成15年十勝沖地震	平成15年(2003年)十勝沖地震	正式名にした
分冊 2	1.1.1	8	15-16	(佐藤ほか,1994)	(佐藤ほか,1994b)	記述ミス
	3.2.1	207	図3.2.1-23	ケースA1の図を差し替え		
	引用文献	218	11	Sugiyama, Y. (2003)	Sugiyama, Y. (2004)	記述ミス

#### 4月13日版以降の修正

	章節	頁	行	修正前	修正後	備考
主文	2.3	11	表2.3-1	震源を予め特定しにくい(2箇所)	震源断層を予め特定しにくい(2箇所)	修正漏れ
	3.1	15	17~20	震源を予め特定しにくい	震源断層を予め特定しにくい	修正漏れ
	3	48	参考図3.5-2	図が(a)と(b)で反対	図を入れ替え	修正ミス
分冊 1	2.2	7	14~17	震源を予め特定しにくい	震源断層を予め特定しにくい	記述ミス
	2.2	19	表2.2.1-2	長期評価結果(*は形状評価)	長期評価結果	修正漏れ

5月2日版以降の修正

	章節	頁	行	修正前	修正後	備考
主文	2.3	10	表	75 京都盆地－奈良盆地断層帯	75 京都盆地－奈良盆地断層帯南部(奈良盆地東縁断層帯)	修正漏れ
	3.4	30	8～10	震度6弱以上となる可能性は評価領域によって異なっているが、そのうちどの地震の影響がどの程度あるのかという相対的な割合が棒の高さで示されており、評価領域毎に棒の高さ足し合わせると100%になる。	震度6弱以上となる可能性は評価領域によって異なっているが、棒グラフは、そのうちどの地震の影響がどの程度あるのかという相対的な割合を示したものであり、主な地震についてはその数値を併せて示している。	グラフのスタイル変更に伴う修正漏れ
分冊 1	2.2.1	12	表 2.2.1-1	75 京都盆地－奈良盆地断層帯	75 京都盆地－奈良盆地断層帯南部(奈良盆地東縁断層帯)	修正漏れ
	引用文献	208	40	北日本	西日本	記述ミス

6月3日版以降の修正

	章節	頁	行	修正前	修正後	備考
主文	2.3	7	10	地震調査委員会は、…対象として選び出し…	地震調査研究推進本部は、…選び出し、地震調査委員会ではそこで発生する…長期評価を実施した	表記の変更
	3.4.2	38	9	主要 98 断層帯以外の活断層の地震	沈み込む太平洋プレート内に発生する地震	記述ミス
	4.1.1	50	14	低下降下量	応力降下量	記述ミス
	4.1.1	52	図 4.1-1	計測震度(2箇所)	震度(2箇所)	表記の修正
	4.2	56	表 4.2-1(2)	94. 4(48+26. 4)	74. 4(48+26. 4)	記述ミス
	4.2	56	表 4.2-1(2)	右横ずれ(三浦半島断層群に3箇所)	右横ずれ	記述ミス
	4.3.2	64	2コラムの4行 目	破壊速度設定の不確定性	破壊伝播速度の設定に伴う不確定性	表記の修正
	4.3.3	65	図 4.3.3-1	$\theta$	N27. 5° E、および $\delta$ に修正、矢印を一部消去	表記の修正
	4.3.8	70	図 4.3.8-1	$\theta$	$\delta$	表記の修正
	付録 3	94	付表 3-1(その1)	56 砺波平野断層帯	56 砺波平野断層帯・呉羽山断層帯	修正漏れ
付録 3	95	付表 3-1(そ	56 砺波平野断層帯	56 砺波平野断層帯・呉羽山断層帯	修正漏れ	

			の2)			
	付録3	96	付表3-1(その3)	56 砺波平野断層帯	56 砺波平野断層帯・呉羽山断層帯	修正漏れ
	付録3	96	付表3-1(その3)	4 増毛山地東縁断層帯	4 増毛山地東縁断層帯・沼田一砂川付近の断層帯	修正漏れ
	付録3	99	付表3-1(その6)	4 増毛山地東縁断層帯	4 増毛山地東縁断層帯・沼田一砂川付近の断層帯	修正漏れ
分冊 1	2.2.1	9	表2.2.2-1	増毛山地東縁断層帯	増毛山地東縁断層帯・沼田一砂川付近の断層帯	修正漏れ
	2.2.3	108	表2.2.3-1	30147 高縄山北断層 0.066%	30147 高縄山北断層 0.060%	修正漏れ
	2.2.3	158	表2.2.3-4	対象関東地震	大正関東地震	記述ミス
分冊 2	1.1.1	4	31	高周波遮断振動数 fmax	fmax	表記の変更
	1.1.1	8	14	高周波遮断振動数 fmax	fmax	表記の変更
	1.1.2	11	33	高周波遮断振動数 fmax	fmax	表記の変更
	1.1.2	13	8	高周波遮断振動数 fmax	fmax	表記の変更

8月10日版以降の修正

区分	章節	頁	行	修正前	修正後	備考
主文	4.2	56	表4.2-1(2)	1987年宮城県沖地震	1978年宮城県沖地震	記述ミス
	4.3	61	18行目	—	ただし、「宮城県沖地震を想定した強震動評価」については、後日、修正すべき点のあることが判明したことから、当該部分を修正する再評価を実施し、平成17年12月14日に一部修正版を公表した。ここでは、その修正結果を掲載する。	宮城県沖地震の強震動評価の修正に伴う修正
	4.3.4	66	1行目	(概要)	(概要) ※平成17年12月14日一部修正	
	4.3.4	66	21行目	ケースA1では、浅い地盤構造の増幅率の高かった旧北上川下流域の広い範囲において震度6弱を示し、その中のとこどろで震度6強以上を示している。	ケースA1では、浅い地盤構造の増幅率の高かった旧北上川下流域の広い範囲において震度6弱を示した。また、ごくわずかではあるが、震度6強以上と予測された領域も認められる。	
	4.3.4	66	図4.3.4-2	—	修正に伴い差し替え	

分冊 2	1.1.1	8	23 行目(1-19式)	$t < t_s$	$t > t_s$	記述ミス
	2.2.6	76	図 2.2.6-5	観価線形	等価線形	記述ミス
	3.2	174	9 行目	明らかにした。 ここでは、これらのうち、宮城県沖地震を想定した強震動評価について紹介する。	明らかにした。 ここでは、これらのうち、宮城県沖地震を想定した強震動評価について紹介する。 <u>なお、後日、同評価結果には修正すべき点のあることが判明したことから、当該部分を修正する再評価を実施し、平成 17 年 12 月 14 日に一部修正版を公表した。以下では、その修正結果を掲載する。</u>	宮城県沖地震 の強震動評価 の修正に伴う修正
	3.2.1(5)	183	24 行目	この影響と、浅い地盤構造の増幅率が高いことより、予測結果は旧北上川下流域の広い範囲において震度6弱を示し、その中のところどころで震度6強以上を示している(図 3.2.1-15)。	この影響と、浅い地盤構造の増幅率が高いことより、予測結果は旧北上川下流域の広い範囲において震度6弱を示した。また、ごくわずかではあるが、震度6強以上と予測された領域も認められる(図 3.2.1-15)。	
	3.2.1(5)	184	16,17 行目	ケース A1 の計算計測震度 5.6 ケース A1 の計算計測震度 5.3	ケース A1 の計算計測震度 <u>5.5</u> ケース A1 の計算計測震度 <u>5.2</u>	
	3.2.1(5)	184	21 行目	計算結果は計測震度 4.9~5.6 の範囲と	計算結果は計測震度 4.9~ <u>5.5</u> の範囲と	
	3.2.1	197	図 3.2.1-8	—	各図の説明を追記	
	3.2.1	199	図 3.2.1-11	—	修正に伴い差し替え	
	3.2.1	200	図 3.2.1-13	—	修正に伴い差し替え	
	3.2.1	201	図 3.2.1-14	—	修正に伴い差し替え	
	3.2.1	201	図 3.2.1-15	—	修正に伴い差し替え	
	3.2.1	202	図 3.2.1-16	—	市郡境界の修正	
	3.2.1	203	図 3.2.1-18	—	市郡境界の修正	
	3.2.1	203	図 3.2.1-19	—	修正に伴い差し替え	
	3.2.1	207	図 3.2.1-23	—	修正に伴い差し替え	
3.2	174-187	—	—	日本語表現の統一等の字句の修正		

12月14日版以降の修正

区分	章節	頁	行・図表番号	修正前	修正後	備考
主文	3.4.2	38	26行目	砺波平野断層帯	砺波平野断層帯・呉羽山断層帯	表記の修正
	3.4.3	40	脚注	2004	2004a	記述ミス
	3.5	46	19行目	2004	2004b	記述ミス
	4.2	57	表 4.2-1(3)	砺波断層帯(2箇所)	砺波平野断層帯	記述ミス
	4.3.13	75	表 4.3.13-1	図 2 参照(2箇所)	図 4.3.13-2 参照	記述ミス
	引用文献	86	下3行目~1行目	地震調査委員会(2001):森本・富樫断層帯の評価(平成13年12月12日公表、平成14年5月9日訂正、平成17年1月12日変更). 地震調査委員会(2002):布田川・日奈久断層帯の評価(平成14年5月8日公表).	地震調査委員会(2001):森本・富樫断層帯の評価(平成13年12月12日公表). 地震調査委員会(2002):布田川・日奈久断層帯の評価(平成14年5月8日公表、平成14年5月9日訂正、平成17年1月12日変更).	記述ミス
	付録2	93	付表 2-3	平成16年12月27日(十勝沖)	平成16年12月20日	記述ミス
分冊 1	2.2.1(3)	52	表 2.2.1-5	布田川・日奈久のケース1-2南部とケース2南部の30年確率: 0.36%(4箇所)	0.35%	記述ミス
	2.2.1(3)	52	表 2.2.1-5	布田川・日奈久のケース1-2南部とケース2南部の50年確率: 0.60%(4箇所)	0.58%	記述ミス
	2.2.1(3)	52	表 2.2.1-5	区間の欄の「中南部」	中部・南西部	記述ミス
	2.2.1(3)	52	表 2.2.1-5	区間の欄の「南部」	南西部	記述ミス
	2.2.2(4)	86	図 2.2.1-21	庄内沖地震の領域「ツ」	領域「チ」	記述ミス
	2.2.2(4)	86	図 2.2.1-21	新潟地震の領域「テ」	領域「ツ」	記述ミス
	2.2.3	131	図 2.2.3-10	福島県沖の配分率の表示漏れ	矢印を記入(8:1)	記述ミス
	2.2.3(2)	134	31,38行目	陸域の震源断層を予め特定しにくい地震	「陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震」	表記の修正
2.2.3	146	30行目	主要 98 断層帯あるいはグループ 1 の活断層	主要 98 断層帯あるいはそれ以外の活断層	表記の修正	



分冊 1	2.2.3(2)	148	図 2.2.3-21	陸域の浅い震源を特定しにくい地震	陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震	表記の修正
	2.2.3(2)	157	図 2.2.3-26	陸域の震源断層を予め特定しにくい地震	陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震	表記の修正
	2.2.3(2)	159	図 2.2.3-27	陸域の浅い震源を特定しにくい地震	陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震	表記の修正
	2.2.3(2)	160	10 行目	陸域の地殻内で発生する震源断層を予め特定しにくい地震	「陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震」	表記の修正
	2.2.3(2)	161	図 2.2.3-28	陸域地殻内の地震	陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震	表記の修正
	2.2.3(2)	165	8 行目	陸域の浅い震源断層を予め特定しにくい地震	「陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震」	表記の修正
	2.2.3(2)	165	24 行目	陸域地殻内の震源断層を特定しにくい地震	「陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震」	表記の修正
	2.2.3(2)	165	28 行目	陸域地殻内の震源断層を予め特定しにくい地震	「陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震」	表記の修正
	2.2.3(2)	166	図 2.2.3-33	陸域の浅い地震	陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震	表記の修正
	2.2.3(2)	171	9 行目	陸域の浅い震源断層を予め特定しにくい地震	「陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震」	表記の修正
	2.2.3(2)	171	下 8.12 行目	陸域の震源断層を予め特定しにくい地震	陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震	表記の修正
分冊 2	2.2.6	55	1 行目	青色	黒色	記述ミス
	2.2.3	61	表 2.2.3-1	図 2 参照(2 箇所)	図 2.2.2-3 参照	記述ミス
	3.2.1	188	表 3.2.1-1	図 1, 2 参照(6 箇所)	図 3.2.1-2、図 3.2.1-4 参照	記述ミス
	3.2.1	188	表 3.2.1-1	図 2 参照(2 箇所)	図 3.2.1-4 参照	記述ミス